



評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0 使用評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)東区本町2条1丁目 新築工事	階数	5
建設地	東区本町2条1丁目1-3、-4、-5、-6、-7、-8	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準住居地域	平均居住人員	100 人
建物用途	病院	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
竣工年	2023年1月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	1,468 m ²	評価の実施日	2022年2月8日
建築面積	741 m ²	作成者	
延床面積	3,422 m ²	確認日	2022年1月31日
		確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★ B+

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 78%

③上記+②以外のオンサイト手法 78%

④上記+オフサイト手法 78%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEI][BEIm]= 0.74

2-5 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>現状のコロナ禍を鑑みて、メインエントランスに近接して面談室を設け、有事には外部から上階への進入を極力避けられるよう考慮した。また、各所に手洗いが出来る設備を設置し、適宜除菌が出来るよう配慮した。</p>	<p>A 省エネルギー</p> <p>省エネ性能基準を十分にクリア出来るよう、外皮性能、一次エネルギー性能について計画、検討を行った。</p>	
<p>B 省資源等</p> <p>建材の定尺を考慮し、材料のロスを極力無くすよう努めた。また、構造躯体を可能な限り少なくし、間仕切り壁により、後の転用が出来るよう考慮した。</p>	<p>C 緑化</p> <p>「札幌市緑の保全と創出に関する条例」による緑化率20%を確保した。その他敷地の全面道路側については出来る限り緑地とした。</p>	<p>D 雪処理</p> <p>敷地内駐車場の一部を雪の堆積場所として確保し、適宜敷地外へ搬出出来るよう除雪の計画を行った。</p>

4 ほかの認証・評価制度の利用			
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	-	BELS認証	-
上記以外の認証・評価制度の利用		LEED認証	-

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.4)		■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0						
(仮称)東区本町2条1丁目 新築工事		■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)						
スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数			
Q 建築物の環境品質								3.0
Q1 室内環境					0.40		-	3.1
1 音環境				3.4	0.15	3.1	1.00	3.3
1.1 室内騒音レベル			事務室を該当箇所とし、不利側で評価した。	4.0	0.40	4.0	0.40	
1.2 遮音				4.2	0.40	3.3	0.40	
1 開口部遮音性能				3.0	0.40	3.0	0.38	
2 界壁遮音性能			居室間界壁を対象とし、遮音性能の認定番号にて評価した。	5.0	0.60	4.0	0.38	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	3.0	0.25	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			居室間界壁を対象とし、遮音性能の認定番号にて評価した。		-	-	-	
1.3 吸音				1.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境				2.6	0.35	3.0	1.00	2.8
2.1 室温制御				2.2	0.50	3.0	0.50	
1 室温				3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能	省エネ			3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性				1.0	0.38		-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境				2.5	0.25	2.5	1.00	2.5
3.1 昼光利用				1.8	0.40	1.8	0.40	
1 昼光率				1.0	0.60	1.0	0.60	
2 方位別開口					-		-	
3 昼光利用設備	省エネ			3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策				3.0	0.40	3.0	0.40	
1 昼光制御	省エネ			3.0	1.00	3.0	1.00	
2 映り込み対策					-		-	
3.3 照度				3.0	0.20	3.0	0.20	
3.4 照明制御				-	-	-	-	
4 空気質環境				4.1	0.25	4.0	1.00	4.0
4.1 発生源対策				5.0	0.50	5.0	0.63	
1 化学汚染物質			VOC関係については放散量が少ない建材を全面的に採用した。	5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気				2.0	0.30	2.3	0.38	
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能					-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理				5.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視					-		-	
2 喫煙の制御			建物内は原則禁煙とし、入居者にもその旨を周知する。	5.0	1.00		-	

Q2 サービス性能			—	0.30	-	-	3.4
1 機能性			4.0	0.40	4.4	1.00	4.2
1.1 機能性・使いやすさ			4.0	0.40	5.0	0.60	
1	広さ・収納性	居室を対象とし、生活に十分な広さを確保した。		-	5.0	1.00	
2	高度情報通信設備対応			-		-	
3	バリアフリー計画	移動円滑化基準に適合する仕様とした。	4.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性			4.0	0.30	3.5	0.40	
1	広さ感・景観 (天井高)			-	3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース			-		-	
3	内装計画	内装材の色分けをし、高齢者が室認識をし易いよう配慮した。	4.0	1.00	4.0	0.50	
1.3 維持管理			4.0	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計	内装材は色や模様を考慮し、汚れに強いものを選定した。	4.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保	管理側と利用側の資材の保管場所を分け、メンテナンス時に利用者に影響が出ないよう考慮した。	4.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性			2.8	0.30		-	2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数			2.9	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	2.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	4.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
2.4 信頼性			2.4	0.20		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		1.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.0	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり			1.0	0.30	1.0	0.50	
1 階高のゆとり			1.0	0.60	1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			1.0	0.40	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		構造計算により、各所に余裕をみた荷重設計とした。	5.0	0.30	5.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性		評価欄の通りの設計とした。	4.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出	緑化		1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化		3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雷処理		3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	省エネ基準に適合出来るよう設計した。	5.0	0.20		-	5.0
2 自然エネルギー利用	省エネ		3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEIm] = 0.74 -	4.2	0.50		-	4.2
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制	省エネ		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-		-	
4.1 モニタリング	省エネ			-		-	
4.2 運用管理体制	省エネ			-		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護			2.2	0.20		-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.60		-	2.9
2.1 材料使用量の削減	省資源		3.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	-	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	躯体と内装材の分別がし易いよう考慮した。また、一部設備についても再利用可能なものを使用した。	5.0	0.20		-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源	次世代材料等、有害物質を含まないものを積極的に採用した。	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒	省資源		2.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮	省資源	評価欄の通りの設計とした。	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止	省資源		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 悪化 管理		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		1.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		駐車場の広さを十分確保し、敷地外での荷捌き等が発生しないよう配慮した。	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 管理	ゴミの分別、保管が出来るようストッカーの配置等検討した。	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.1	0.33	-	-	2.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			1.6	0.40	-	-	
1 風害の抑制			1.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			1.6	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			1.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要		BEE	1.1	BEEランク	B+
建物名称	(仮称)東区本町2条1丁目 新築工事				
建物用途	病院				
延床面積	3,422.0 m ²				

2 重点項目への取り組み

地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★
	省資源等	★★★★☆
	緑化	★★★☆☆
	雪処理	★★★★☆

レーダーチャート

省エネルギー性能: 4.0
省資源等への取組: 2.4
緑化への取組: 2.1
雪処理: 2.0

★1=スコア(最低点~最高点)20%以下
★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下
★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下
★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下
★5=スコア(最低点~最高点)80%以上

3. 重点項目のCASBEEスコア

A 省エネルギー (最高点 23.8 最低点 6.8)		合計		18.3点 / 23.8点	
Q1 温熱環境	スコア	0.6 / 1.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	4.0 / 4.0
Q1 光・視環境	スコア	1.7 / 2.8	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2 / 2.0
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	8.4 / 10.0
			LR1 効率的運用	スコア	2.4 / 4.0
B 省資源等 (最高点 23.7 最低点 7.7)		合計		14.4点 / 23.7点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.6 / 1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	5.2 / 9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4 / 2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.3 / 1.9
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.8 / 5.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	2.1 / 4.4
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)		合計		6.9点 / 15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	0.9 / 4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 / 2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	3.6 / 6.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4 / 2.3			
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)		合計		2.0点 / 3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0 / 1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0 / 2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■重点項目の**最高**点は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数
 ■重点項目の**最低**点は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数